

Conference Report

学界情報 国際会議レポート

The International Conference on Electrical Machines and Systems (ICEMS2010) October 10 - 13, 2010, Incheon, Korea

2010年10月10日から13日までの4日間、KIEE（韓国電気学会）主催、電気学会産業応用部門およびCES（中国電工技術学会）の共催で、The 2010 International Conference on Electrical Machines and Systems (ICEMS 2010)が韓国の仁川国際会議場にて開催された。ICEMSは、パワーエレクトロニクスを含む電気機器とそのシステムに関する国際会議であり、日本、中国、韓国の3学会が持ち回りで毎年実施している。昨年は、東京船堀のタワーホール船堀にて開催されている。

今回の仁川大会では、当初603件のアブストラクトが20カ国より投稿され、14カ国からの427件が採択となり、オーラルセッション131件、ポスターセッション296件に分かれて発表が行われた。投稿件数、採択件数ともに国別では中国が最多とのことであった（投稿308件、採択212件）。大会参加者は16カ国355人と発表された。

10日（日）はWelcome Receptionが開催され、続いて11日から13日までの3日間でテクニカルセッションが行なわれた。11日午前には、Opening Ceremonyに続いて4件の基調講演（韓国2件、中国1件、オランダ1件）が行なわれた。昼食をはさんで午後初めにポスターセッション、続いてオーラルセッションが行なわれた。オーラルセッションはPM関係、電力変換器、モータドライブ等6セッション並行開催であった。12日は、午前は2回に分けて計11のオーラルセッションとポスターセッションが行なわれ、午後には6個のオーラルセッションとポスターセッションが行なわれた。夜にはバンケットが同会議場内で開催され、およそ300人の参加者のもと和やかに進められた。Soo-hyun Baek元KIEE会長に引き続き、玉井D部門長、三木明治大教授やRobert Lorenz IEEE-IAS元会長らが挨拶を行った。アトラクションとしてはバイオリンや二胡等をベースとした（中国の女子十二楽坊のような）女性グループによる歌と演奏、並びに太鼓をベースとしたショーが催され、盛会のうちに幕を閉じた。最終日の13日は、午前中の前半に5個のオーラルセッションとポスターセッションが行なわれ、引き続き基調講演が3件（日本1件、韓国2件）、最後にClosing Ceremonyが開催され、大会は終了となった。オーラルセッションのテーマ数を眺めると、PM関係3、電力変換器6、モータドライブ5、自然エネルギー関係4、誘導機・同期機関係3等であった。今大会ではポスターセッションの論文数がかかなり多かったが、スペース的にはゆったりとしていた。ただし、オーラルセッションと同時開催であった点は多少気になったが、それ以外では進行上特に問題は無かったと思われる。

次回2011年のICEMSは中国・北京のオリンピック公園内のNational Convention Centerで開催される。ダイジェスト(1ページ)の締め切りは2011年2月15日である。

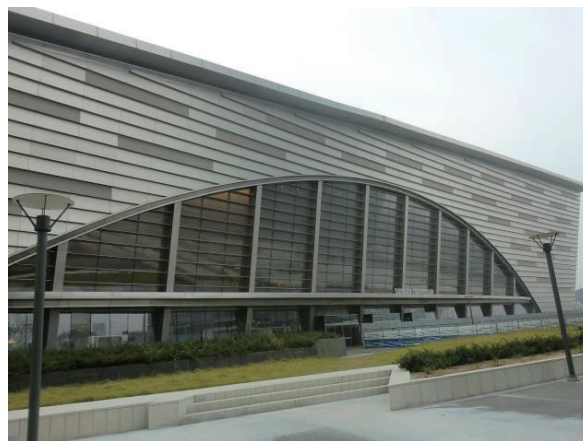


図1 仁川国際会議場



図2 基調講演



図3 バンケットにおけるアトラクション

田村 淳二（北見工業大学）
（平成 22 年 10 月 31 日受付）